

フクユタカ 豆腐加工適性に優れ、広域適応性のある多収品種。
我が国で最も多く栽培されている品種。

1 加工適性

(1) 加工上の長所・短所

高タンパクで豆腐にした時、固まりやすく硬い豆腐ができます。また、豆腐に加工する際の収率が高く、豆腐・油揚げ用原料として高い評価が得られています。

へその色が淡褐色であることと、蒸煮した時やや硬く出来上がるため、煮豆にはあまり向いていません。

(2) 育成場所における品質に関するデータ(7月播種)

項 目	フクユタカ	トヨシロメ
粒大	中の大	大の小
百粒重(g)	31.1	33.2
へその色	淡褐	黄
成分組成		
粗蛋白質含有率(%)	42.3	41.8
粗脂肪含有率(%)	23.0	19.8

注) 天候不良の平成11年を除いた10年～13年の生産力検定試験結果。

タンパク質ならびに脂質は近赤外分析による。

タンパク質含有率は子実の窒素含有率に6.25を乗じて算出。

(3) 育成場所における豆腐加工適性試験成績

項 目	フクユタカ	トヨシロメ
子実吸水率(%)	130.7	137.5
豆乳収量(g)	260.6	256.4
豆腐破断強度(g/cm ²)	130.0	89.0

注) 平成8年の豆腐加工適性試験結果。

6倍加水の豆乳(原料50g)を作成し、凝固剤にはGDL0.4%を使用。

2 栽培特性

(1) 栽培上の長所・短所

広域適応性のある良質多収品種であり、草姿良く倒伏にも強いので密植栽培にも適応できます。しかし、早播きの場合の耐倒伏性は「中」程度となります。褐斑粒の発生は極めて少ないですが、ネコブセンチュウ、葉焼け病、さび病には強くありません。

(2) 育成場所における栽培特性に関する試験結果(7月播種)

項 目	フクユタカ	トヨシロメ
収量*(kg/10a)	366	337
早晩性	晩の早生	晩の早生
コンバイン収穫適性		
裂莢性	中	中
耐倒伏性	強	強
最下着莢節位*(cm)	16.5	15.2
病虫害抵抗性		
ウイルス病 ほ場抵抗性	中	極強
ネコブセンチュウ抵抗性	弱	弱

注) *天候不良の平成11年を除いた10年～13年の生産力検定試験結果。

他は、試験結果を「だいでず特性審査基準」に基づいて分類。

3 栽培地域 (平成23年産)

千葉県	370ha	静岡県	315ha	石川県	56ha	福井県	7ha
岐阜県	2,519ha	愛知県	4,280ha	三重県	4,154ha	滋賀県	2,095ha
大阪府	3ha	島根県	94ha	岡山県	11ha	山口県	117ha
徳島県	71ha	香川県	76ha	愛媛県	371ha	高知県	140ha
福岡県	8,061ha	佐賀県	7,283ha	長崎県	505ha	熊本県	2,415ha
大分県	1,300ha	宮崎県	266ha	鹿児島県	300ha		

4 栽培上の留意点

慣行より早播きの場合は、栽植密度を低く押さえたり摘心するなどして倒伏を押さえ、着莢の低下を押さえる必要があります。また、肥沃な水田転換畑での早播きは無施肥でも栽培できます。ネコブセンチュウには弱いので、同じ畑での連作、水田転換畑においても3年以上の連作は避けて下さい。さび病、葉焼け病の発生しやすい地区では、種子消毒、子実肥大期の防除を励行することが必要です。

育成場所：九州沖縄農業研究センター（昭和55年育成）
 問い合わせ先：九州沖縄農業研究センター
 大豆育種研究九州サブチーム tel：096-242-7740